

エグゼクティブサマリ

振り返ってみると2011年は、チュニジアのジャスミン革命に始まり、エジプトのムバラク政権崩壊、リビアのカダフィ大佐の失脚等、中東諸国を飲み込んだ民衆蜂起の大きな流れがありました。また、長期化する世界経済の低迷の中で起こったロンドンの暴動や、ウォール街から世界中に広まった反格差デモ等は、未だに落ち着く先が見えない状態で続いています。こうした混乱の中で、人々はインターネット経由で情報を交換しながら、自らのとるべき行動を判断していました。

また国内でも、2011年3月11日に発生した東日本大震災とそれに続く原発事故において、大きな組織から与えられた情報のみに依存するのではなく、インターネットを通じて得た生の情報を活用する等して、国民一人一人が自ら判断し、自立的に行動することの大切さが見直されたように思います。

一方、これらの出来事に便乗した、インターネット上の様々な攻撃や、情報漏えい事件が後を絶たないという状況下では、一人一人がインターネットの安全性に対する意識を高めることがとても重要です。

本レポートは、このような状況の中で、IJがインターネットというインフラを支え、お客様に安心・安全に利用し続けていただくために継続的に取り組んでいる様々な調査・解析の結果や、技術開発の成果、ならびに、重要な技術情報を定期的にとりまとめ、ご提供するものです。

「インフラストラクチャセキュリティ」の章では、2011年10月から12月までの3ヵ月間に発生した主なインシデントを月ごとに時系列で並べ、分類し、概要をまとめると共に、期間全体での統計と解析結果をご報告します。また、対象期間中のフォーカスリサーチとして、公開鍵証明書発行に関する事件や問題、そして標的型攻撃とその対応について解説します。

「メッセージングテクノロジー」の章では、過去65週間の迷惑メールの長期トレンドを示すと共に、2011年10月から12月までの直近13週間の迷惑メールの割合の推移と主要送信元地域の分布の推移を示します。また送信ドメイン認証技術の普及割合についてご報告します。

「ネットワークテクノロジー」の章では、IPv4アドレス枯渇後のIPv6への移行期におけるIPv4アドレスの共有技術として提案されている各方式を、ステートフル方式とステートレス方式に分類し、それぞれの方式の特徴を概観し、比較を行います。またSEILルータ上で試験実装を行っている4rdを例にとり、ステートレス方式の具体的な動作について解説します。

「インターネットトピック」では、IJがファシリティとITの融合をコンセプトとして昨年4月より展開している松江データセンターパークにおいて、データセンターのさらなる省エネルギー化を目指して、2012年度上期から実施を計画している実証実験についてご紹介します。

IJでは、このような活動を通じて、インターネットの安定性を維持しながらも、日々改善し発展させて行く努力を続けております。今後も、お客様の企業活動のインフラとして最大限に活用していただくべく、様々なソリューションを提供し続けて参ります。

執筆者:

浅羽 登志也(あさば としや)

株式会社IJイノベーションインスティテュート 代表取締役社長。1992年、IJの設立と共に入社し、バックボーンの構築、経路制御、国内外ISPとの相互接続等に従事。1999年より取締役、2004年より取締役副社長として技術開発部門を統括。2008年6月に株式会社IJイノベーションインスティテュートを設立、同代表取締役社長に就任。